

# 麻酔科専門医研修ネットワークプログラム

(静岡医療センター麻酔科専門医研修プログラム)

(静岡県立静岡がんセンター麻酔科専門医研修プログラム)

## 1 はじめに

プログラムリーダー 静岡県立静岡がんセンター 病院長 玉井 直  
静岡医療センター 統括診療部長 小澤 章子

このプログラムは、主に静岡県東部地域(富士川以東)にある複数の麻酔研修認定病院が、各病院の特色を活かす中で、日本麻酔科学会の専門医取得を目指す若手医師に提供するものです。2015年度より日本麻酔科学会の専門医研修プログラム指針の変更に合わせて、二つの病院が責任施設として学会から研修プログラムの承認を受けております。単独施設では症例や麻酔関連業務の偏りがあり、関連施設間でローテーションを組み、臨床能力の高い麻酔科医の養成を旨とします。

当地は気候が温暖で、海の幸、山の幸に恵まれ、近隣に富士山や伊豆の温泉地などもあり、また東京・横浜へのアクセスも便利で、すぐれた生活環境にあります。このプログラムに一人でも多くの方が参加していただき、当地域全体の麻酔科医増加と医療レベル高度化に寄与されることを期待しています。

## 2 特徴

この研修プログラムは若手医師の育成に賛同した病院群によって構成され、学閥のない自由な雰囲気の中、我々の優秀な仲間の育成を目指しています。専門知識や技術をしっかり学びながら、地の利を活かして自分の時間を有意義に過ごす、「ライフ&ワーク・バランス」の実現を目指しています。

## 3 目的

麻酔科専門医の受験資格取得に必要な、麻酔トレーニング(知識・技術の習得)を各病院の特徴を生かした研修でもれなく行います。

## 4 目標

日本麻酔科学会専門医を取得します。

## 5 研修カリキュラム

麻酔科学会の「教育ガイドライン」に沿って、専門医取得に必要な学会発表、論文執筆の指導と、麻酔業務に必要な知識・技術を習得します。専門医取得には、麻酔標榜医・認定医の取得が不可欠です。これらの資格取得から指導いたします。申込時に、研修の拠点となる責任基幹施設を選択していただきます。(静岡がんセンターもしくは静岡医療センター)

参考)『麻酔科医のための教育ガイドライン(改訂第2版)』

## 6 研修例

【例】 下記はあくまでも例であり、個別に調整します。

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	責任基幹施設（静岡がんセンター または 静岡医療センター）											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	関連研修施設（伊東市民病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、県立こども病院、浜松医大附属病院 他）											

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	責任基幹施設／関連研修施設											

4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	責任基幹施設／関連研修施設または基幹研修施設（県外も含む）											

## 7 研修病院群

病院群		
麻酔科学会 承認プログラム名	静岡県立静岡がんセンター 麻酔科専門医研修プログラム	静岡医療センター麻酔科 専門医研修プログラム
責任基幹施設	静岡県立静岡がんセンター	静岡医療センター
関連研修施設	静岡医療センター 順天堂大学医学部附属静岡病院 県立こども病院 浜松医科大学医学部附属病院	静岡県立静岡がんセンター 順天堂大学医学部附属静岡病院 県立こども病院 浜松医科大学医学部附属病院 伊東市民病院
その他	慶応義塾大学病院（関連研修施設） 岡山大学病院（関連研修施設）	名古屋医療センター（基幹研修施設）

### 静岡県立静岡がんセンター

病床数 589 床（GICU14 床、緩和病棟 50 床を含む）、手術室は 13 室あり、平成 26 年の年間手術件数、麻酔科管理件数は別表の通りです。平成 26 年 12 月現在、常勤麻酔科医 7 名（指導医 3 名、専門医 3 名、認定医 1 名）、非常勤麻酔科医延べ 16 名／週のほか、外科系レジデント（ローテーション）が麻酔を担当しています。すべての領域のがんの手術が行われていますが、胃がん、大腸がん、肝胆膵がんの手術件数は全国有数です。体腔鏡下手術も積極的に行われて、平成 23 年末から手術支援ロボットダ・ヴィンチによる手術も始まり、2 台体制で直腸がん手術は国内 1 位、胃がん手術は同 2 位の手術件数があります。また分離肺換気を要する肺がんまたは食道がん手術も毎日複数行われています。歯科、循環器内科、リハビリテーション科とのチーム医療により、合併症のある患者にも適切な周術期管理が行われ、また症例数の多さと固定された外科スタッフにより手術が行われており、難手術でも手術時間は短く、術後合併症の発生頻度は少ないのが特徴です。

ICU のファーストコールは各診療科医師で、麻酔科当直（レジデントには一般当直があります）はなく、ワークライフバランスのよい研修環境です。ペインクリニックは開設していませんが、

緩和ケアチームに参加して疼痛管理を担当しており、希望があれば研修期間内に緩和医療科ローテーションが可能です。

### 静岡医療センター

病床数は400床、手術室は7室、ICUは10床（GICU+CCU）で、麻酔科常勤医は3名（指導医2名、後期研修医1名）、非常勤医師は1日平均1.5名です。県専門医研修ネットワークプログラムに参加している後期研修医1名が所属しており、ステップを踏んで、麻酔と全身管理を研修しています。

当院の特徴は次のとおりです。①麻酔管理症例は手術侵襲度が低い症例から高い症例へと段階的に担当するプログラムになっています。皆さんの習熟度に合わせていきます。②術式、患者背景が多岐にわたり、各種の麻酔方法、手技（硬膜外麻酔のみ、神経ブロックのみなど）と気道管理（マスク換気の徹底習得、器具や気管支鏡による挿管など）の研修が可能です。③周術期の患者の観察と管理を重視しています。術前～術中～術後を診ることで、侵襲が生体に及ぼす影響とその変化を知ることができ各種の病態への理解が深まります。④心臓大血管手術では、循環動態の評価、輸液の考え方、薬剤の使い方を研修します。⑤ICUは自動ドア1枚で手術室の隣にあり、手術着のまま靴をはき替えずに移動できます。ICUの運営はsemi closedで、麻酔科は各科の主治医と連携をとって、一緒に全身管理を行っています。⑥研修では、まず一般麻酔で患者診察、評価と麻酔の考え方、手技などの基礎を学び、③、④、⑤の研修で各種のショックや緊急事態の評価と初期対応の習得を目指します。⑦手術室看護師は素直でチームワークがとてもよく、また院内の診療科は外科系、内科系ともに横の連携が非常に良好です。施設規模も中程度で職員のフットワークもよく、大変に働きやすい環境です。是非、見学に来てください。

### 順天堂大学医学部附属静岡病院

順天堂大学医学部附属静岡病院は、伊豆長岡町の町立病院の経営を学校法人順天堂が引き継ぐかたちで順天堂伊豆長岡病院として昭和42年に発足しました。当初は100床にも満たない小さな病院でしたが、次第に診療科と病床数を増加させ現在では552床の病院となっています。なかには救命救急センター（40床）、新生児センター（30床）などがあり、その他総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院などにも指定されています。またドクターヘリの基地病院にもなっています。そのため救急医療や周産期医療など、静岡県東部で特に必要とされている分野で活躍しています。

当院には、救急医療に対応するため脳神経外科、循環器科、整形外科、一般外科など様々な専門の診療科があり、麻酔科も多数の緊急手術に対応できるとして院内で信頼されています。

### 静岡県立こども病院

病床数は約280床で手術室6室・ハイブリッドカテ室1があります。その他手術室以外で小児特有のMRIなどの検査麻酔や骨髄穿刺などの侵襲が加わる処置検査などに全身麻酔を行っています。ここ数年は年間約2800件の全身麻酔管理を行っています。麻酔科常勤医は7-8名（麻酔科指導医2名）のほか院内の後期研修医を数名受け入れています。当院では新生

児手術約 100 件、乳児手術約 450 件と多くの小児の麻酔が行われており、小児麻酔の十分な研修が可能です。小児なので全身麻酔が基本ですが、術後鎮痛のため超音波ガイドの神経ブロックや硬膜外ブロックなどを積極的に行っています。

県専門医研修医ネットワークプログラム参加者のため、若干名の受け入れ枠を用意しています。研修の時期・期間等は研修者の希望を聞きながら調整します。

### **浜松医科大学医学部附属病院**

病院単独でのレジデント募集とは別に、「県専門医研修医ネットワークプログラム」参加者のために、若干名の受け入れ枠を用意しています。

希望者はこの受け入れ枠により、小児麻酔の研鑽のため、6ヶ月程度の研修を受けることができます。なお、研修の時期・期間等は各病院の研修医の受け入れ状況により、調整します。

### **伊東市民病院（静岡医療センター麻酔科専門医研修プログラムのみ参加）**

当院は、伊豆半島東部に位置します伊東市にある総合病院です。業務は手術麻酔管理が主で、時折緩和チームよりブロックの要請を受けることがあります。手術麻酔管理は、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳外科、形成外科、眼科の局所麻酔下手術を除くすべての手術の麻酔をおこなっております。当院の特徴として、伊東市に老人施設が多いこともあって、手術患者は高齢な方が多いです。必然的に合併症を持っている患者の麻酔管理が多いということ、また大腿骨頸部骨折など下肢の手術が多いことから区域麻酔（脊髄くも膜下麻酔）の割合が多いです。ゆえに脊髄くも膜下麻酔の手技に関しては上達すること間違いありません。平日は手術が立て込んで遅くなることも時々ありますが、たいていは定時で勤務終了しますし、夜間、休日の急患は多くないため、十分な自分の時間を取ることができます。伊豆はダイビング、サーフィンなどのマリンスポーツスポットもありますし、観光スポットも多く、仕事だけでなく余暇も堪能できると思います。

## 8 病院群の麻酔科管理症例実績（平成 26 年 1 月～12 月末）

研修施設	静岡県立静岡がんセンター	静岡医療センター	順天堂大学医学部附属静岡病院	静岡県立こども病院	浜松医科大学医学部附属病院	伊東市民病院
年間手術数	4407	2821	6897			1356
麻酔科管理総数	3450	1598	3382			529
全身麻酔 + 硬膜外麻酔 (脊椎くも膜下麻酔含む)	3440	1539	2746			239
硬膜外麻酔 又は 脊椎くも膜下麻酔	7	55	616			290
その他	3	4	20			
小児麻酔(6歳未満)	7	10	49	1700	135	
帝王切開麻酔	0	12	335	162	183	
心臓血管外科麻酔	0	110	268	341	157	
胸部外科麻酔	411	7	141	19	175	
脳神経外科麻酔	74	10	290	272	143	

## 9 研修期間

4年間～

## 10 プログラム参加者の要件

- 1) 静岡県から奨学金を受け、前期研修(2年間)が終了した医師：原則卒後3年目  
(奨学金受給者は公的病院等での勤務義務が定められていますが、大学附属病院、県外施設勤務期間は返済免除期間に含まれません)
- 2) 奨学金制度と関係なく、県内、県外を問わず、前期研修(2年間)を終了した医師
- 3) 既に後期研修を他病院で始めているが、当プログラムに参加を希望する医師(卒後3年目以上、ただし各プログラム委員会での登録変更の承認が必要)

## 11 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

## 12 プログラム修了後の進路

- 1) 病院群への就職可能です
- 2) 関連する大学医局への入局へ推薦することが可能です

## 13. プログラム運営委員(◎：プログラムリーダー)

◎静岡県立静岡がんセンター 病院長兼麻酔科部長

玉井 直(1975年京都大学医学部卒)

日本麻酔科学会指導医、日本集中治療医学会専門医

専門医を目指す若い医師にとって、最初の数年間をどのような指導者の下で、またどのような病院で研修するのかが医師としての一生を左右するものです。個々の麻酔科は大学医局のように大きくはありませんが、各施設は診療機能に特色を持ち、また出身医局も経歴もさまざまな、個性ある先輩の指導者から「怒られる」間こそ学ぶものは大きく、手術でも、麻酔管理でも、若い間に一流のものを見ることが何よりも大切です。このプログラムではそれを提供することができます。外科医を初めとする医療チームからも、患者からも信頼の得られる、「本物のプロ」である専門医となることを支援します。



◎静岡医療センター 統括診療部長（手術部長・集中治療部長併任）

小澤章子(1987年北里大学部卒)

日本麻酔科学会指導医、日本医学シミュレーション学会認定 DAM インストラクター、日本救急医学会 ICLS コースディレクター、日本医師会認定産業医

当院は、私と麻酔科医長の今津康宏（1994年高知医科大学卒、日本麻酔科学会指導医）が担当します。私たちは麻酔専門医を志す皆さんに、私たちが今までに得た知識、考え方、技術のエッセンスを、ピットフォールも含めて、できる限りわかりやすく伝えたいと考えています。今までの研修症例数（後期研修医、6か月間）は、硬膜外穿刺は84～121例（平均約100例）、中心静脈穿刺は約30例でした。麻酔を中心とした急性期治療を、私たちと一緒に勉強していきましょう。



順天堂大学医学部附属静岡病院

麻酔科・ペインクリニック教授

岡崎敦

日本麻酔科学会認定指導医

当院は、手術件数の約30%が緊急手術であり、多発外傷をはじめ多彩な救急患者に対応しています。また、大学病院として高度な手術もおこなわれており、高い技術の麻酔管理を求められます。これらの症例を十分に経験することができます。



伊東市民病院（静岡医療センター麻酔科専門医研修プログラムのみ参加）

富樫秀彰(1990年浜松医科大学医学部卒)

日本麻酔科学会認定指導医